



健康支援課
☎973-3209

子育て・発達 Q & A



「みんながって、みんないい。」
(金子みすず)

子どもは100人いれば100通り。みんなそれぞれ違った個性を持っています。でも、親としては、その子に合った子育てができているかどうか分からない、どうもうまくいかない、どうやって関わったら良いのか分からない、と不安になるときがあるかもしれません。

健康支援課では、保健師・心理士が、妊娠・出産から、乳幼児の発育・発達・健康についての相談に応じています。今回は、これまでに寄せられた質問と、対応例について、いくつかご紹介いたします。

Q. こどもの遅れが心配です



個人差が大きい時期ではありますが、平均すると、1歳過ぎに「パパ」「ママ」「ワンワン」など、いくつかの単語を話します。そして2歳頃には「公園行った」「ママいない」など、2つの単語をつなげて話すようになり、3歳頃になると、会話のキャッチ

ボールが何回もできるようになり、す。ことばがゆっくりなお子さんには、次のようなことが有効です。

① 具体的に見せて、触れさせながら教える。



② 体の動きに合わせて声かけを。



「ゴシゴシ♪」
「トントントン」
「よいしょっ♪」

③ ふれあい遊びで、「キャッキャッ」と声を出したり、「もっともっと」と要求する気持ちを育てる。

高いたか～い♪
(ゆっくりと)



1本橋こちよこちよ♪

Q. かんしゃくするとき、どう対応したらいい?



怒る理由は子どもによって様々です。①「欲しいものが手に入らない」「もっと遊びたいのに」という自分心の理由もあれば、②「自分でお片付けたかったのに」「がまんしたかったのに」と誉められるためにやろうとしていたことができなかつたくやしさが理由であることもあります。

かんしゃくの対応

- ① まず、原因を考えてみましょう。
- ② あれこれと言いつ過ぎないようにしましょう。刺激すると余計に混乱し、長引くことがあります。
- ③ ピークを過ぎてから、できるだけ一對一になり向かい合って、「どうしたの?」と聞いてあげましょう。本人なりの理由があるはずですよ。
- ④ 数分長引いているときは、何も言わずに抱っこしてあげましょう。

かんしゃくを起す前にできること

① 「もっと遊びたい」といったかんしゃくは、事前の声かけで防ぐことができるかもしれません。例えばお出かけや就寝のときは、「あと10分経ったらお片付けして、お出かけ(寝る)しようね」と前もって伝えると良いでしょう。10分は、「○○の歌をうたい終わったら」「10まで数え終わったら」など工夫しても良いでしょう。お出かけ前には、「スーパードに行くよ。お菓子はひとつだけね。お買いたいのものが終わったらおうちに帰るよ」と、事前に予定を伝えておくとうれしいでしょう。

② かんしゃくの原因が、くやしきであれば、「○○したかったのに、できなかったんだね。えらかったね。」と、チャレンジ心を誉めてあげましょう。

Q. どこに相談したらいい?



・市の保健師、心理士
・お子さんの通っている保育所や幼稚園の先生
・子育て支援センターや児童館の保育士
・かかりつけの病院の先生
等、まずは身近にいる支援者に相談ください。そこでの解決が難しい場合は、別の専門機関と一緒に考えることができます。